

# 1 区政改革のめざすもの

## (1) 新しい成熟社会に向けた自治の創造

平成 27 年 3 月、今後の区政運営の方向性を明らかにする「みどりの風吹くまちビジョン」（以下、「ビジョン」とします。）を策定しました。ビジョンでは、今後の区政にとって特に重要な課題を取り上げ、総合的・体系的に政策を示しました。これから取り組む区政改革は、ビジョンに掲げた政策を実現するための具体的な仕組みや態勢を、「区民の視点」から見直そうとするものです。

なぜ見直しが必要なのでしょうか？

ビジョンでは、人口減少や「超」超高齢社会の到来など、これからの社会を「新しい成熟社会」と位置づけています。新しい成熟社会は、従来の、成長の延長線上にある豊かさとは異なる局面をもちます。区政は、モデルなき未知の時代に直面し、これまで経験したことのない状況への対応を迫られます。社会の変容が進み、地域社会のあり様や区民の意識も変わりつつあります。

国や都の制度に倣うだけでは、リアルな区民ニーズに応えることができなくなっています。区民に最も身近な基礎的自治体としての役割を果たすには、これまで前提としてきたサービスのあり方を根本から見直し、時代の状況と地域の実態に即した質の高い区民サービスを継続して提供できる、持続可能な仕組みに変革していく必要があります。

このことは区だけでできることではありません。自治の主役は区民の皆さんです。皆さんの生活実感に基づき、ともに考え、参加と協働による練馬区ならではの新しい自治を創造することによって、はじめて区政改革が実現できると、区は考えています。

## (2) 豊かな可能性をもつ練馬区

かつて近郊農村地帯だった練馬区は、昭和 22 年に 23 番目の特別区として誕生しました。当時の人口は約 11 万人でしたが、その後ほぼ一貫して人口が増加し、平成 27 年 11 月 1 日の総人口は 71 万 8,929 人で、全国有数の大都市です。23 区の中でもこれだけ順調に人口が伸び続けている区はありません。地域で活躍する多彩な人材にも恵まれた練馬区は、大きな可能性を秘めています。

また練馬区は、23 区の中で緑被率が 25.4%と最も高く、農地も約 220ha と最も多くの面積を有しています。都心に近い利便性と多様なみどりに包まれた住環境が両立しているところが練馬区の特長で、とりわけ、農のある暮らしを楽しめることは区の大きな魅力となっています。

平成 26 年度の区民意識意向調査では、9 割を超す区民が「住みよい」と感じています。

しかし一方で、今後見込まれる高齢者人口の激増と介護・医療ニーズの膨張、人口あたり一般・療養病床数が 23 区で最少、区北西部の鉄道空白地域の存在、区西部地域を中心とする都市計画道路の整備の遅れなど、練馬区特有の課題を抱えています。

こうした練馬区の課題を解決し、特性を活かす知恵と工夫を凝らしながら、改革を進めることで、練馬区の潜在力を開花させ、さらに豊かで美しく、活力ある練馬区へと発展させていくことができます。

### **(3) 将来へ向けて区民の皆さんとともに改革に取り組みます**

将来に向けて、何をどのように改革していくべきなのかを区民の皆さんとともに考えるために、この資料を作成しました。

人口構造の変化や区特有の課題を踏まえると、今後の練馬区にとって、福祉・医療とまちづくりは、特に重要な政策課題です。そこでこの資料では、次の4つの課題を取り上げました。データに基づいて現状と将来見通しを明らかにし、現時点での区の考えをお示ししています。

- 1 子ども・子育て支援
- 2 超高齢社会への対応
- 3 都市基盤の整備と維持
- 4 区立の建物施設の維持・更新

また、改革を支える基盤となる財政や職員の育成などについての区の問題意識も明らかにしています。

区民の皆さんとともに考え、力を合わせて改革を進めたいと考えています。ぜひ、ご意見をお寄せください。